

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<b>1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）</b>
市立福知山市民病院 家庭医療専門医研修プログラム

<b>2. プログラム責任者</b>			
氏名	川島 篤志	指導医認定番号	第 2014-0921
所属・役職	市立福知山市民病院 総合内科 医長		
所在地・連絡先	住所 〒620-8505 京都府福知山市厚中町 231 番地 電話 0773-22-2101 FAX 0773-22-6181 E-mail kawashima-a@fukuchiyama-hosp.jp		
連絡担当者氏名*・役職			
連絡先*	電話	FAX	
	E-mail		

\* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載

<b>3. 後期研修医定員</b>
1 年あたり（4）名 （×研修期間年数＝総定員 12 名）
※総合診療専門研修 I および II において、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医認定制度要綱 28 条に定める常勤指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医 3 名に対して 1 名以上配置できる人数に留めること。例えば、総合診療専門研修 I が 9 カ月の場合、3 名ずつが 9 カ月毎にローテートするならば、3 年＝36 カ月のプログラムで 1 年あたり最大 4 名（ $36 \div 9 = 4$ ）まで受け入れ可能となる。

<b>4. プログラムの期間</b>
（3）年間

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p><b>5. 概要</b></p> <p><b>A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長</b>          本プログラムは、市立福知山市民病院と現在の国民健康保険新大江病院（平成 27 年度より市立福知山市民病院の分院として再発足し市立福知山市民病院大江地域医療研修センターと呼称予定）から構成される。結核病床や回復期リハビリ病床を含めて 354 床を持つ市立福知山市民病院は、人口約 8 万人の福知山市の地域基幹病院で、周辺地域を含めた約 10 万人の医療圏を持つ。新大江病院は療養病床を含めて 72 床からなる地域医療機関である。双方を合わせた医療圏には、京都府北部の長田の工業団地を含むことから、一定数の若年者や小児が居住し、また大江地区をはじめとした山間部には多くの高齢者が居住している。周辺に医療機関が少ないことから、両医療機関を通じて一次から三次まで、高齢者から年少者まで、様々な疾患の地域でのマネージメントを外来・入院・在宅の各フィールドで実践することが出来る。</p> <p><b>B. プログラムの理念、全体的な研修目標</b>          プログラムの理念：地域で責任ある確実な医療を提供できる医師を養成する</p> <p>全体的な研修目標：医学的には、頻度の高い症候・疾患の初期診療や継続的な医療を提供するとともに、稀な疾患でも適切に対応し専門医につなげられるための十分な臨床能力を養う。同時に患者背景や社会資源への十分な配慮も身につける。さらに予防や福祉に関わる問題にも貢献できる。</p> <p><b>C. 各ローテーション先で学べる内容や特色</b>          総合診療専門研修Ⅰでは、山間部の小規模病院をベースとし、急性期から亜急性期・慢性期に至る疾患とそれぞれの患者や家族が抱える健康問題を経験し、そのマネージメントを経験することが出来る。療養病床や在宅診療、健康増進・予防活動、さらに地域での一般的な外来と救急、入院診療、さらに高次医療機関との有効な連携も経験する。総合診療専門研修Ⅱでは、プライマリ・ケア連合学会の病院総合医養成プログラム認定試行事業に準じ、頻度の高い疾患を中心に、消化器・循環器以外の概ね全ての分野の疾患の外来受診（救急含む）、入院加療や退院後のフォローアップが経験できる。消化器・循環器の各疾患は、領域別診療の内科にて各科をローテーションして経験する。救急では地域基幹病院であることから、地域で発生するほぼ全ての一次～三次の疾患を経験し初療と状況により入院加療も経験可能である。</p> <p><b>D. 指導体制に関する特長</b>          総合診療専門研修Ⅱでは、指導医を中心に日々の症例検討の振り返りを実施する共に、定期的に医師以外の医療職からのフィードバックも受ける。市立福知山市民病院での週 1 回のカンファレンス出席の機会などを通じて、自身が転送した患者についても指導が行われる。総合診療専門研修Ⅱの市立福知山市民病院では、家庭医療指導医を中心にスタッフや後期研修医、初期研修医で 4-5 人の医師チームを構成する。各医師チームでは朝夕にカンファレンスを実施し、各患者への生物医学的と共に心理社会面でのアプローチを議論検討する。外来・救急での担当患者についても、週に 1 回の振り返りカンファレンスを実施。さらに、医療チームごとで、1 回/月での振り返りやポートフォリオ作成のサポートを行う。領域別診療においても、同一医療機関であるため、1 回/月での振り返りやポートフォリオ作成のサポートを行う。</p> <p><b>E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法</b>          市立福知山市民病院は以前より、共同診療カードを用いて地域の病病及び病診連携を極めて円滑に進めてきており、医療関係者からの理解を得ている。本研修で中心的役割を担う市立福知山市民病院の総合内科は、これまでも継続的に地域の高齢者医療やへき地診療所医療を担ってきており、各医療関係職種や福祉関係職種との間で十分な連携が構築されている。地域住民や医療機関利用者にも、上級医や各専門医の十分なサポートのもとに専攻医（後期研修医）らが医療を提供していることを公表してきており、一定の理解が得られている。今後も、地域に適切な医療を提供する方策の一つとして十分な教育力をもった基幹病院であることの重要性を発信し続けること、各患者の様々な医療問題に真摯に取り組むことで、理解と協力が継続的に得られるようにする。</p> <p><b>F. その他</b>          市立福知山市民病院では、普段の臨床を通じた教育に加えて、約 2 か月に 1 度程度の頻度で外部講師を招聘して実施する研修会、各スタッフ医師や研修医自身が主催する勉強会など、初期研修医や後期研修医に相当する医師の教育に力を入れている。本研修プログラムにおいても、これらの教育資源を十分に活用することを念頭においている。</p>
---

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

G. モデルとなるローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診 II	救急	救急	救急								
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	小児 科	小児 科	小児 科	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I	総診 I
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	その 他	その 他	その 他	内科	内科	内科	内科	内科	内科	その 他	その 他	その 他

※「総診 I」、「総診 II」、「内科」、「小児科」、「救急」、「その他」という表記で記入してください。

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修 I (9) カ月		総合診療専門研修 II (9) カ月	
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

※救急科が兼任研修の場合の記載法：例えば内科 8 カ月、小児科 4 カ月の間週 1 回救急科研修したら、内科 6 カ月、小児科 3 カ月、救急科 3 カ月というふうに、本来の研修先の研修期間（この場合内科＋小児科の 12 カ月）のうち救急科研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間（内科 8 カ月と小児科 4 カ月）は救急科研修の期間を減じた形（内科は 8→6 カ月、小児科は 4→3 カ月）で記載して下さい。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<b>6-1. 総合診療専門研修 I</b>					
研修施設名 1	新大江病院		診療科名 (内科)		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院		施設が病院のとき → 病院病床数 (72) 床 診療科病床数 (72) 床		
総合診療専門研修 I における研修期間		(9) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり				
※同一施設で3カ月以上ずつの2ブロックに分けることのみ可能。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。					
指導医氏名 1	和田幹生	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		指導医認定番号	( 第 2012-57 )
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		指導医認定番号	( )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤		指導医認定番号	( )
※常勤指導医を確保できない場合、指導医の特例についての申請書が必要 (審査有)					
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))					
<b>ケアの内容</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</li> <li>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</li> <li>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</li> </ul>					
<b>施設要件</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※小児科を有する病院で実施するプログラムは基本的に記載要) 具体的な補完方法 ( )</li> <li>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (救急対応できる環境と共に、受け入れが困難な症例は市立福知山市民病院と連携する)</li> <li>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (入院患者・外来患者 (在宅患者含む) とともに緩やかな主治医制をとる。定期受診での継続的な関わりや他、訪問診療対象の患者でも、主治医が中心となって多職種連携を取る等により継続的に関わる体制をとっている。)</li> <li>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳超までの多様な年齢層に対して、急性期・慢性期の外来診療と予防医学的アプローチ、訪問診療を含めた緩和ケアを提供できる患者層があり、それに対する診療体制をとっている。)</li> <li>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (地域の診療所や後方病院となる市立福知山市民病院、近隣の介護・福祉医療機関との間で紹介や逆紹介は頻繁に行われ、必要時には電話での相談を行いあう関係性がある。退院時を中心に、必要であれば外来通院中も、ケアマネージャーをはじめとするサービス担当者とのカンファレンスを実施し、各患者についての情報交換を日常的に行っており、今後も継続する。ACPについても各医療機関等との間で連携を強化している。)</li> <li>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (家族内の関係性が重要とされる患者については、電子カルテの表示機能を利用して、診療に関与する関係者が家族のそれぞれの状況を把握できるようにしている)</li> <li>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (研修期間中に地域枠を提供し、受診していない地域住民等への集団アプローチを考える機会を持たせる。住民対象の勉強会での講演・発表の機会、健診受診者へのアプローチを通じて、地域住民へのケアを学ぶ機会を与える)</li> <li>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 それぞれの概ねの頻度 (週に1-2日を訪問診療にあて、各患者に月2日の定期訪問診療とともに、急変時にはグループとして臨時往診も時間内および時間外も含めて積極的に対応する。さらに、必要に応じて新大江病院および市立福知山市民病院への搬送などで対応できる体制とする。在宅緩和ケアも積極的に行い、患者・家族が希望する際には在宅看取りがスムーズに行える連携体制をケアマネ・診療所看護師・訪問看護師と構築する。)</li> </ul>					
週当たり研修日数：(5) 日					
総合診療専門研修 I の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修内容とその日数					
内容					
日数		日/週			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ				
研修施設名 1	市立福知山市民病院	診療科名 (総合内科)		
施設情報	病院病床数 (354) 床	診療科病床数 (約70) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		(9) カ月		
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (分割について具体的に記入してください)			
指導医氏名 1	川島篤志	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(第 2014-0921 )
指導医氏名 2	渡邊力也	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(第 2014-1015 )
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	( )
※常勤指導医を確保できない場合、 <u>指導医の特例についての申請書</u> が必要 (審査有)				
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす ( <input checked="" type="checkbox"/> のように))				
<b>ケアの内容</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。				
<b>施設要件</b>				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している				
<b>病棟診療</b> ：以下の全てを行っていること				
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (当科の入院患者の 8 割以上は高齢者である。介護を要する虚弱高齢者が多く、これらへの対応は日常的な問題である。医師チーム内での議論や医療者チームでの議論、さらに家族や各福祉関係者との相談を経て各患者に適切な選択肢の提示と方針を決定する方法を研修する)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (高齢者や若年者でも複雑が生活背景等を持っている複数の問題を抱える患者に対しては、多くの症例で当科が主治医機能を担当している。各患者に対して、医師や各医療チームが果たすべき役割を議論しながら実施していく体制があって、その中で研修しながら方法を学ぶ)				
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (内科の 4 科の常勤専門医、内科以外の常勤専門医や非常勤専門医とは、日頃からコンサルトが気軽に行える体制が構築されている。医療チームなどで議論を通じて、当該患者の速やかな拾い上げとコンサルト、必要に応じてその後のフォローアップを研修する。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (当科の全ての医師や病棟看護師は共通の対応指針を持っている (四分割法)。これをもとにして、複雑な事例についてはその都度に多職種 (各科医師、看護師、事務など) で議論を行っている。頻度も、当科では平均 1 回/週を超えている。				
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (院内には医師や看護師を含む医療職からなら緩和ケアチームがあり、週 1 回の定期的の症例検討や個別症例検討を行っており、月に 1 回程度の院内勉強会も実施している。これらへの参加、及び日々の医療チームでの症例検討などにより迅速な対応を行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (院内には 8 人のメディカル・ソーシャルワーカーが常勤で勤務し退院支援を行うとともに、近隣の福祉施設や訪問看護ステーションなどとの密な連携を行っている。退院時は、多くの症例でケースワーカーなども同席での多職種カンファレンスを実施している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (年間で 50 例程度の在宅患者が、発熱や経口摂取不良などの精査や加療目的で入院し、診断と加療及び退院後の生活を鑑みた環境調整などを行っている。)				
<b>外来診療</b> ：以下の診療全てを行っていること				
<input checked="" type="checkbox"/> 救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (救急外来は一般外来の診療時間以外を中心に全ての曜日の全ての時間帯に、内科の初診外来は平日の午前中に診療している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (全ての内科初診外来と総合内科が担当する再来外来は、全てで臓器別でない診療をしており、臓器別の紹介状を持たない新患者を毎月約 400 名診療している。)				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

<p>■よくある症候と疾患                  具体的な体制と方略（内科の外来患者のおよそ7割程度が頻度の高い症候や疾患の患者である。後期研修2年目頃から定期的な外来を担当し、常に上級医に相談できる体制をとっている。）</p>	
<p>■臨床推論・EBM                  具体的な体制と方略（外来患者に関する症例検討会を毎週1回行い、臨床推論やEBMの観点からも検討している。さらに、週1回の臨床研究論文の輪読会、月1回の臨床研究勉強会で自らエビデンスを作成する活動を行っている）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア                  具体的な体制と方略（高齢者を中心に複数の健康問題のある患者の大部分は総合内科を中心として診療を行い、症状や必要性に応じて院内の専門各科にコンサルトすることで包括的なケアを提供している。）</p>	
<p>■診断困難患者への対応                  具体的な体制と方略（不明熱や採血検査異常など診断が困難な患者の精査を、外来や病棟で月に10例程度診療している。各医療チームや総合内科全体でのカンファレンスで議論を行い、診断や方針を検討できる体制が構築している。）</p>	
週当たり研修日数：（4.5）日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	救急研修
日数	0.5日/週

<b>6-3. 領域別研修：内科</b>			
研修施設名1	市立福知山市民病院	病院病床数（354）床	診療科名（腎臓内科）
領域別研修（内科）における研修期間		（1）カ月	
指導医氏名1	金森弘志	臨床経験年数（19）年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
■内科病床数が50床以上ある。（約140（混合病床のため過去実績から平均値））床			
■内科常勤医が5名以上いる。（21）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（17）名			
週当たり研修日数：（5）日			
領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

研修施設名2	市立福知山市民病院	病院病床数（354）床	診療科名（血液内科）
領域別研修（内科）における研修期間		（1）カ月	
指導医氏名1	平川 浩一	臨床経験年数（25）年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会認定医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。			
内科病床数が50床以上ある。（約140（混合病床のため過去実績から平均値））床			
■内科常勤医が5名以上いる。（21）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（17）名			
週当たり研修日数：（5）日			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にあたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

研修施設名 3	市立福知山市民病院	病院病床数（354）床	診療科名（消化器内科）
領域別研修（内科）における研修期間		（2）カ月	
指導医氏名 1	香川 恵造	臨床経験年数（41）年	
有する認定医・専門医資格	日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。 内科病床数が50床以上ある。（約140（混合病床のため過去実績から平均値））床			
■内科常勤医が5名以上いる。（21）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（17）名			
週当たり研修日数：（5）日			
領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

研修施設名 4	市立福知山市民病院	病院病床数（354）床	診療科名（循環器内科）
領域別研修（内科）における研修期間		（2）カ月	
指導医氏名 1	阪本 貴	臨床経験年数（18）年	
有する認定医・専門医資格	日本循環器学会認定循環器専門医・日本内科学会認定内科医		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
<b>施設要件</b>			
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。 内科病床数が50床以上ある。（約140（混合病床のため過去実績から平均値））床			
■内科常勤医が5名以上いる。（21）名			
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。（17）名			
週当たり研修日数：（5）日			
領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<b>6-4. 領域別研修：小児科</b>			
研修施設名 1	市立福知山市民病院	病院病床数（354）床	診療科名（小児科）
領域別研修（小児科）における研修期間		（3）カ月	
指導医氏名 1	足立 晋介	有する専門医資格（日本小児科学会専門医）	
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
<b>ケアの内容</b>			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
<b>施設要件</b>			
■小児領域における基本能力（診断学、治療学、手技等）が修得できる。			
■小児科常勤医がいる。（4）名			
週当たり研修日数：（5）日			
領域別研修（小児科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<b>6-5. 領域別研修：救急科</b>			
研修施設名 1	市立福知山市民病院	病院病床数 (354) 床	年間救急搬送件数 (2600) 件
指導医氏名 1	北川昌洋	有する専門医資格 (日本救急医学会救急科専門医)	専従する部署 (救命救急センター)
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす (■のように)			
<input checked="" type="checkbox"/> ブロック研修 → 領域別研修 (救急科) における研修期間 (3) カ月 <input type="checkbox"/> 兼任研修 → どの研修と組み合わせるか ( ) 週あたり研修日数 ( ) 日、研修期間 ( ) カ月 ※兼任研修の場合、「5. 概要」の「H. プログラムの全体構成」の記載との整合性を保つこと			
要件 (各項目を満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
<b>ケアの内容</b>			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
<b>施設要件</b> (下記のいずれかを満たす)			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関 (救急搬送件数が年に 1000 件以上)			
週あたり研修日数：(5) 日			
領域別研修 (救急科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容			
日数	日/週		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 整形外科	崎長靖生
精神科/ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 精神科	鑪直樹
産科婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1~2) カ月	市立福知山市民病院 産婦人科	山下貞雄
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 皮膚科	近森亜紀子
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 泌尿器科	増田健人
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 眼科	水野連太郎
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 耳鼻いんこう科	石坂成康
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input checked="" type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	(1) カ月	市立福知山市民病院 リハビリテーション科	平山宏史
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		
その他 ( )	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	( ) 日/週	( ) カ月		

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）
<p>評価は各ブロックで、当該ブロックの半分が終了した時とブロックの終了時（3ヶ月を超えるブロックについては1か月半毎）に実施する。</p> <p>各ブロックの最終評価は研修責任者による客観的評価（各ブロックの研修責任者により選択：OSCE、診療を観察（ビデオ収録も可とする）して評価）と研修医自身への面談を通じて総合評価として行い、到達目標に達していない場合は、当該ブロックを時期をおいて再度実施するものとする。</p> <p>全ての研修が終了した段階で、当研修プログラムに関与した全ての家庭医療指導医による合議によって修了認定を行う。</p>

8. プログラムの質の向上・維持の方法
<p>上記の評価の際に、同時に、研修医からプログラムに対するフィードバックを行う。</p> <p>また、各指導医によるフィードバックと意見の集約を行い、適宜、改善を行う。</p> <p>研修医が記載するポートフォリオから成長の状況を判断し、指導上の問題点を抽出する。</p>